

巻 頭 言

モノづくりについて

幹事 足立 重光

近年、製品を国内で製造せず外国、特に中国での現地生産が注目されている。理由はいろいろ考えられるが人件費等が安く製造コストを低く抑えられることが大きな要因だと思います。

これはバブルがはじけた以降、会社経営の基本的考え方が変化したと考えられる。つまり、会社存続のためとは言え債務、雇用、設備の削減等経営の効率化に重点がおかれ、モノづくりで一番重要、且つ品質に直接影響する製造現場が以前より冷淡な扱いを受けている傾向が見受けられる。

このことは日本の将来に大きな禍根を残すことにならないかと憂慮する次第である。何故ならば、資源のない日本が将来的に安定した生活を継続する為にはモノをつくり輸出する構造に当分変化がないと予想されるからである。

これに歯止めをかけるには多少コストが高くて日本でしかつukれない付加価値の高いものを製造するか、又は設計、製造等の工程を改善し国内で生産する方が品質、コスト、納期等総合的に優位を勝ち取る以外ない。

ここで問題になるのは、モノづくりにはソフトとハードがあるが最近の傾向としてソフト面が重要視されハード面が軽視されがちである。これは一概に会社が悪いわけではないが生産性向上目的と近年は汗をかいて働くいわゆる3K職場(きつい,汚い,危険)への若者の志望者が減少の一途をたどっていることも理由の一つであろう。

又、ソフト面を顧みれば現場の意向が十分取り入れられてなく、形式のみ整えたもので実際に十分活用できるものが少ないのが現実ではないだろうか、これは入社時に設計、工場等配属された後の交互の交流が少なく実際のモノづくりに携わってない為、ソフトを一部の関係者に委ねてきた結果、一方通行となっていることが多々ありこの問題を解決するためには現場に精通する人をソフト構築に参加させ意見を十分反映させることがより一層重要と考えます。

最近の懸念事項は、技術、技能の伝承がスムーズにっていないことである。これは成果主義となり、定年まで落ち着いて働く事なく転職が比較的安易になされる傾向と無関係ではないと思います。又、伝承する立場の私を含めていわゆる団塊の世代に退職が間近にせまり時間との勝負になっています。モノづくりの伝承方法はマニュアルづくり等、簡単ではありませんがソフト及びハードの両面において一番の基本は人づくりであると確信しています。

以上

お知らせコーナー

●平成 16 年度第 4 回例会 「工場見学会」ご案内

1. 日 時：平成 16 年 11 月 4 日（木） 9：30～18：00

2. 見学先：住友軽金属工業株式会社 伸銅所 （宝飯郡一宮町）

* 単独工場としては世界最大規模の銅管工場

- ・ 明治 30 年開設、鑄造から完成品まで
- ・ 銅管の他、銅合金管、チタン管およびそれらの加工管製造
- ・ TPM 賞受賞（1995 年）ISO9002 登録（1995、98）など

* 工場見学および技術講演をお願いしています。

3. スケジュール：

金山（9:30）→高辻 IC→（東名高速）→豊川 IC→豊川稲荷参拝（10:30 - 11:30）
→昼食（伊勢屋本店、11:45 - 12:30）→住友軽金属工業(株)伸銅所見学（13:00 - 15:30）→豊川 IC→（東名高速）→東別院 IC→金山（18:00 予定）

4. 会 費：4,000 円/人、会員外 5,000 円/人（当日徴収させていただきます）

5. 参加申込み：10 月 29 日までに下記中部支部事務局（松田）まで E-mail または Fax にて連絡願います。

E-Mail：g-chubu@asahi-net.email.ne.jp F a x：052-533-1305

6. 定 員：バス利用のため 40 名（先着順）

7. CPD について：参加証明書を発行します。

8. 集合場所・時間：ダイエー金山店前に 9 時 20 分までに集合、9 時 30 分発。

9. この件のお問合せ：

上記の事務局又は下記担当幹事まで E メールでお願いします。

- ・ 担当幹事： 跡部昌彦：masahiko.atobe@nifty.com
太田隆之：tohta@beige.ocn.ne.jp
加藤允可：mkato-5kken@md.ccnw.ne.jp

愛知県技術士会 平成 16 年度 第 4 回例会 工場見学会参加申込書（FAX 用）
（A4 サイズのまま FAX ください）

ご氏名	部門名	所属名称
第 4 回例会に関するご意見・ご希望		

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

「広場・湖海の土」 No.25

天の極地だより(3)

西脇 正倫(建設部門)

二日目、シガチェを出てヤムドク湖に向かう。途中、氷河の水をためるダムのある峠で休憩。マッターホルンのような槍峰と無数の亀裂が鮮烈な氷河が間近に見える。バスを止めると、ここでもあつという間に子供たちが寄ってくる。ここの子供たちはすぐさま「元」を要求し始める。ガイドも金を渡すように我々に勧める。いくら手渡しても手は差し伸べられる。インドやネパールではおなじみの風景、ちがうのはガイドのお墨付きということだろうか。

シガチェからラサへの復路は、ほぼ全線が「現在工事中」だ。発破のために停車したり、立ち往生する軍用車を押したりしての道行きである。工事の大半は人力によるもので、全線で同時に作業が進められている。大型建設機械はほとんど見受けられない。機械がないわけではないはずだ。実際、隣接する四川省の成都には日本の工作機械メーカーも進出しているし、ラサ近郊でも日本の工作機械メーカーの看板を見た。

人件費が安いからという意見も一理あるが、ここチベットでは道路工事に携わると1ヶ月あたり約3000元を得ることができるという。これは成都の相場の5倍にあたる。つまりチベットにおいては人件費は安くはない。それでも一見、非能率的な工事が延々と続けられるのは少数民族対策に他ならないと私は考えた。

チベットは20世紀にはいつてから独立を失った国家であり、以降、漢民族の流入が急である。かつてのチベットは独自の文字と言葉、宗教を有していた。文明的にも独立した国家であったのに、人民政府の命によって、チベットの文化人である全僧侶が還俗させられ、寺子屋としての機能を有していた全国の寺院の大半が破壊されてしまった。結果、頻繁に「武力によらない反乱」が生じ、多数の亡命者が生み出された。近年、一部の僧籍と寺院の復興は許されたものの、それはいわば観光用である。

現在もダライ・ラマがインドにあって亡命政府を樹立しており、これに対抗して人民政府はシガチェを中心に勢力を有していたパンチェン・ラマを擁立、対抗している。チベットは、微妙な政治問題を抱える地区である。

このような地区においては、公共事業が政治的意図をもつのは明らかだ。効率や技術は重要な課題ではない。人民政府の名の許に地域の少数民族に「恵み」が施されることが重要である(ただし教育費の大半はチベットに流入した漢民族子弟の通う教育施設におちている)。金銭的な豊かさは消費文化を育み、伝統文化は過去のものとなる。道路整備が進めばさらに漢民族が流入し、新たな文化も流入するだろう。そのすべて

は金で買うことができる。こうしてチベットの精神社会は物質社会へと変貌を遂げる。

最初の日に見た物静かな少女は、この地では人もまた大地の一部であると感じさせてくれた。二日目のダムでみた「元」を欲しがると子供たちと、金を与えるように勧めたガイドは現代チベットの縮図を見せてくれた。

とやかくいうことではない。どちらを選ぶかはチベットの人々の自由なのだから。

(完)

● 例会・講演会講師募集の案内

前号で例会・講演会講師を募集しましたところ早速応募をいただきありがとうございました。例会・講演会講師募集は継続して実施していますので皆様方からの連絡をお待ちしております。

発表時間は質疑を含め 20 分から 30 分程度を予定しています。講師への登録はいつでも結構です。お名前と発表希望時期、ご連絡先 (TEL or E-Mail) を事務局までご連絡ください。

受付は事務局 (中部支部松田さん) にて行います、皆様方からの多数の応募をお待ちいたしております。

● 愛知県技術士会会員の異動

新入会 (2名)

小島 晋 (機械部門) 8月13日入会

澤井 巖 (金属部門) 9月07日入会

退 会 (0名)

● 編集後記

暑かった今年の夏もようやく終わり朝晩はすっかり秋らしくなってきました。決して夏バテした訳ではありませんが会報の発行が 1 週間ほど遅れてしまい皆様方には大変ご迷惑をお掛けしました。紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、先月技術士全国大会 (北海道) に参加するため北海道に行ってきたがその旅費と宿泊費 (2泊3日) が合計で 2 万 5 千円と驚くほどの安さでした。今、低価格への挑戦がいたるところで行なわれています。消費者にとっては大変ありがたいことですが「安い、早い、便利」の裏には使い捨てをしても構わないとする考え方があります。循環型社会への移行が必須課題となっている昨今、「安い、早い、便利」だけを追求することが本当によいことなのでしょうか。今一度、低価格の意味を再考したいと思います。(編集委員：間瀬)